

教員名 山口 志郎

企画名

新温泉町地域創生プロジェクト

地域活性化型

自治体・国／学校(教育機関)
住民組織



企画・活動概要

初日の8月6日(火)は、午前湯村温泉にてフィールドワークを実施し、午後は新温泉町役場にて教育長から挨拶を頂き、その後本プロジェクトの発起人であり新温泉町の元地域おこし協力隊であるH氏から町の概要について説明を受けた。3大学(流通科学大学山口志郎ゼミ、神戸親和女子大学高松祥平ゼミ、兵庫県立大学伊藤克広ゼミ)のゼミをミックスさせ、A班、B班、C班に分かれ、フィールドワークを実施した。その際、A班は「農業組合法人アイガモの谷口」理事長に、B班は「浜坂温泉保養荘」支配人に、C班は「株式会社森甚商店」社長に対し、半構造化インタビューを30分から1時間実施した。インタビューの前後は、各グループで新温泉町の地域資源を掘り起こすため、インターネットや観光パンフレットを基にフィールドワークを行った。

2日目の8月7日(水)は、前日のフィードバックならびにインタビューで得られたデータおよび情報を基に、各自が資料作成を行った。午後の発表会では、各グループが10分間で自分たちの準備した内容についてプレゼンテーションを実施した。発表後は質疑応答の時間を設け、新温泉町の関係者または他のグループから質問やフィードバックを受け、活発な議論が展開された。

最終日の8月8日(木)は、諸寄海水浴場にて、新温泉町職員協力のもとカヌー・カヤック・バナナボートの体験会を行った。最後に、本プロジェクトの発起人であるH氏からコメントと総評を頂き、3日間の新温泉町地域創生プロジェクトは幕を閉じた。

経緯・背景・目的

新温泉町地域創生プロジェクトでは、兵庫県新温泉町において、流通科学大学、神戸親和女子大学、兵庫県立大学、Club Peer learning、新温泉町が協働し、フィールドワークならびに企画提案を通じた新温泉町の地域活性化を行うことを目的としている。



取り組み課題

新温泉町は「新温泉町地方創生総合戦略(2018)」を策定し、町の実情を踏まえて、人口、経済、地域社会の課題など、地域課題の解決と地方創生を実現するべく計画を立てているものの、2010年から2040年の20~39歳の若年女性人口の予想変化率は-70.0%であり、消滅可能性都市の1つに数えられるだけでなく、兵庫県内で最も消滅する可能性の高いまちに位置づけられている。そのため、学生視点の地域創生企画を考えることにより、新温泉町の地域活性化に寄与できると考え、本企画を実施することとなった。

本学(学生)の役割

本企画では、流通科学大学、神戸親和女子大学、兵庫県立大学の学生が3グループに分かれ、新温泉町に眠る地域資源を発掘し、自らPR企画を考えるということで、自分たちでどこに行くか、どういった企画を提案するか、その際、誰にインタビューを行いながら、エビデンスを得るか等を行った。教員は、事前に新温泉町の役場の方や地元住民と調整を行うとともに、宿泊場所やプログラムに伴うリスクマネジメントについて、事前に準備を行い、当日ならびに事前事後については、サポートとしてグループを見守った。



活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

活動の成果として、日本海新聞において、本プログラムが掲載されたことが挙げられる。また、本企画の概要をまとめた論文が日本生涯スポーツ学会が発刊する「生涯スポーツ学研究(短報)」に掲載された。こうした成果は、本学の社会連携の取り組みを社会に発信することに繋がったと考えられる。

学生の成長については、主体性や協調性、目標達成能力、プレゼン能力が身についたことが推察される。現地滞在は三日間と決して長い期間ではなかったが、本企画に向けて前後3ヶ月準備したため、単に地域資源開発だけではなく、上記で述べた4つの能力向上に繋がったと考えられる。



指導教員および関係者の紹介



人間社会学部
人間健康学科
准教授
山口 志郎
(ヤマグチ シロウ)

専門は、スポーツマネジメント、スポーツマーケティング、イベントマネジメント



神戸親和女子大学
講師
高松 祥平
(タカマツ ショウヘイ)

専門は、スポーツマネジメント、スポーツ社会学、スポーツ社会心理学